

地域づくりの核となる直売所

——「福ふくの里」の事例——

研究員 一瀬裕一郎

1 はじめに

農水産物の直売所が人気を集めている。信頼できる食品へのニーズの高まりが背景だ。信頼できる食品の提供に加えて、直売所を地域づくりの核とする取組みもある。本稿ではその一つとして福岡県にある直売所「福ふくの里」を紹介する。

2 地域の漁業と農業の連携

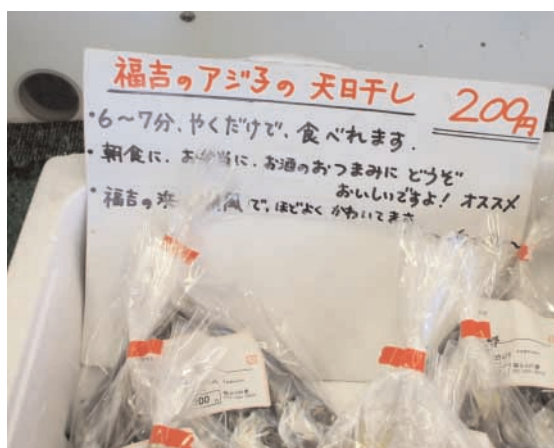
玄界灘の美しい海と水田が広がる糸島郡二丈町。山海の幸に恵まれた同町に直売所「福ふくの里」がある。福吉地域づくり推進協議会（以下「協議会」）が地域産業活性化のために直売所の開設を決め、2002年に開設した。協議会には漁家、農家、および一般の地域住民が参加している。

なお、協議会は07年に第46回農林水産祭の全国表彰において日本農林漁業振興会会長賞（むらづくり部門）^{（注）}を受賞した。

3 人気を集める特色のある品揃え

「福ふくの里」には開店時刻前に並ぶ人がいる。その中にはホテルや料亭の板前たちもいる。彼らをひきつけるのは直売所の品揃えだ。市場には出回らない地魚が並ぶ。漁港から直接搬入されるため、鮮度がよく値ごろ感がある。福岡市内から連日のように買付けに訪れる人もいる。

直売所を利用するのはプロの料理人だけではない。直売所を利用する主婦は多い。出荷者が明らかなことが人気の理由だ。また、魚と野菜が一箇所でそろえることへの支持も大き



手作りの商品案内

い。これは漁家と農家が協力して運営している「福ふくの里」ならではのメリットである。

日常の利用者に加え、旅行会社のバスツアーで来店する人もいる。直売所を気に入り、リピーターになる人が多い。メディアを通じた宣伝に加え、これら利用者の口コミによって「福ふくの里」の評判は広い範囲に伝わっている。売上げは順調に伸びており、最近の年間売上高は6億円を超えている。

4 出荷者を鍛える利用者の評価

規格外品でも販売でき、自ら価格を決められる。これが出荷者にとってのメリットだ。そのため出荷者数は開店当初の約100人から07年の約270人（うち水産物出荷者は約45人）へと増加した。

とはいえ利用者の選択眼はシビアだ。品質の劣るものや、価格に値ごろ感のないものは売れ残る。売れ残ったものは出荷者が引き取らねばならない。売れ行きを通じて、出荷者は利用者の評価を知る。利用者の評価を受け、

出荷者は良質なものを買ってもらえる価格で出荷しようと努力する。おすすめのレシピを盛り込んだ手作りの商品案内を設置するなどの工夫をする出荷者もいる。

役員と出荷者の代表者が月例会議を開き、利用者の声を踏まえた売り場づくりなどについて議論する。また、出荷者は地区ごとに会合を持ち、利用者のニーズなどについて意見交換する。利用者には選ばれる直売所づくりに役職員と出荷者が一丸となって取り組んでいる。

5 住民に生きがいと雇用を提供

「福ふくの里」は既存の流通経路と異なり、量をそろえる必要がない。大量出荷が難しい高齢者でも出荷できる。彼らにとって直売所で小遣いを稼ぐことは生きがいである。また、日々の作業で体を使うため、直売所は健康維持に役立っている。

女性が店舗運営に力を発揮している。漁家の女性は魚の調理に腕を振るう。無料で下処理するサービスが好評だ。レジ係は近隣の主婦パートだ。家庭を優先できる職場なので、子供を持つ主婦でも就労できる。

漁協女性部にはアカモク部会がある。アカモクは地域で採れる海草だが、近年まで販売していなかった。その整腸作用に目をつけ売り出した。最近では新聞に取り上げられ、知名度を上げている。ほかにも県水産海洋技術センターに協力を仰ぎ、「乾燥かき」を開発するなど、地域特産品の開発に力を入れている。

軽視されがちな高齢者や女性の労働力を活

(注) 農林水産祭の表彰行事の一つである「豊かなむらづくり全国表彰事業」の九州農政局表彰式において、福吉地域づくり推進協議会は農林水産大臣賞を受賞し、天皇杯等選賞審査対象地区として中央審査委員会へ推薦された。



笑顔で働く調理場の女性

用し、生きがいと雇用の場を提供している直売所は、地域住民の生活の質を高めている。

6 今後の展開方向

「遠くから来たのに、今日は魚が無いの」、利用者が嘆息する。こんな状況無くすために08年からメールによる入荷状況の案内を始める予定だ。ほかにもITを使えばメルマガ、クーポン券、利用者アンケートなど様々な集客活動が可能になるだろう。

残品を活用できないか。この観点からレストランを併設する案が浮上している。資金など課題が多く、まだアイディアの段階だ。課題がクリアされれば、生産から加工そして小売までのフードシステム全体にわたる事業展開が可能となる。それは「福ふくの里」の魅力を高め、多くの利用者を引き寄せ、出荷者の手取りを増やし、地域産業を一層活性化させることにつながるだろう。

「福ふくの里」は、地域に住む人にとっても、地域外から訪れる人にとっても、楽しく魅力的な直売所である。自然や人など地域にある資源を巧みに活用し、成果をあげてきた福吉地域の地域づくりから学べることは少なくない。

(いちのせ ゆういちろう)